

平成25年
5月15日

相馬市民の会だより

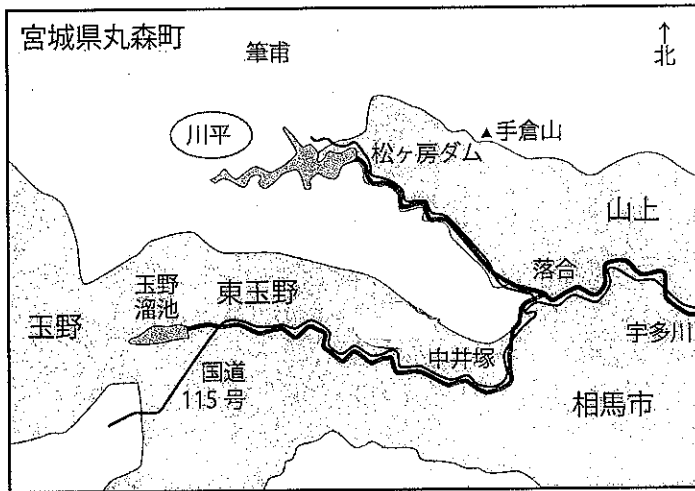
(廃棄物処分場建設に反対する相馬市民の会)

会 長 草野博夫
本部長 佐藤邦房
中村 1-5-4 生涯学習会館内

またか！丸森町筆甫で産廃処分場建設のうごき

4月、また丸森町筆甫字川平地内に産廃処分場を建設しようとして、「ゴミ業者」による住民説明会が開催されました。その業者は、地元の丸森町や宮城県にもあいさつに訪れています。宮城県は、申請手続きに入る前の事前手続きの準備のために動き始めています。

予定されている「ゴミ捨て場」は、私たちの水がめでもある松ヶ房ダムの上です。どんな強じんなシートを敷いても、コンクリートの壁で仕切っても、劣化や地変で破れてしまうことがあります。都会のゴミで業者と一部地元のブローカーの金もうけのために下流の住民の命が危険にさらされることは絶対に許せません。



命の水を守る

宇多川の水は、一部が伏流水として地下を流れ、西山の水源地などから取水され、水道水として市内の一部に供給されています。また松ヶ房ダムからの水は市内の水田を潤しています。

私たちは、この宇多川の恵みを受けて日々生活しているのです。

消えては出てくるこの問題。身近にこんな例が

宮城県村田町のゴミ捨て場は、安全なゴミを捨てる条件の許可でした。業者は金もうけのため、有害なゴミまで許可された何倍もの量を捨てました。周りの住民、近くの学校の生徒たちは、有毒ガス、汚水にたまらず騒ぎ出しました。業者にだまされた宮城県もお手上げ。責任を追及された会社は倒産すれば終わり。県は何百億円もの処理のための税金は投入できず、そのまま土をかぶせたままで、今も有毒ガスと汚水は出ており、不安は消えていない状態です。

宇多川上流への産廃処分場建設は絶対許さない！

これまでも何回となく、入れ替わり産廃業者が処分場を川平地区に建設しようとしてきました。その度に、地区の良心的な住民の方々の反対もあり、私たち市民の会の立場を理解していただき業者は撤退しました。業者はこれまでに多額の資金を投入しているため、容易にはあきらめません。処分場建設反対を表明している相馬市や私たち市民の『心のスキ』が出るのを辛抱強く待っているのです。山上字菖蒲形の処分場建設計画は、市が平成24年度に土地買収を行ったため心配はなくなりました。現在の心配はこの川平地区だけです。書類上でさえ計画が万全であれば、許可されてしまう可能性もあるのです。私たちと一緒に絶対建設を許さない意志を示しましょう。